

# Winter Lodge

## 雪景色を独り占め! アルプスの夢のロッジ

標高1800メートルに位置し、アルプスの大自然に恵まれた村、アローザ。  
クラウディア・ジルバーシュミットは、家族との思い出が  
詰まったこの地に、特別な思いを感じていたそう。  
1970年代にスキー場の中に建てられたロッジを訪れた。

Photos\_GAELE LE BOULICAUT Original Text\_JEREMY CALLAGHAN  
Text\_CHISATO YAMASHITA

### 建築当初の面影を残す 雪景色のエントランス

チューリッヒでインテリアデザインの  
会社アトリエ・チューリッヒを営む  
クラウディア・ジルバーシュミットが  
2016年に購入したロッジ。  
1970年代に建てられ、内装にも  
その特徴が多く残されている。



モノトーンのキッチンには  
銅を上品な差し色に

黒い樹脂製のワークトップが印象的な  
キッチンは、クラウディア自身によるデザイン。  
手前に見えるオレンジのソファは  
カスタムメイド。銅のアクセサリや  
調理器具は、キッチンとリビングの  
所々に配置され、アクセントになっている。









親密さ漂うリビングで  
アルプスの山々をめぐる

キッチンとリビングを隔てていた  
壁を取り払い、特徴的な天井は  
コバルトブルーに塗り替えた。  
中央のベンチとリビングのカーベットは、  
ナバホ族伝統の模様を使った  
テキスタイルを使用している。  
ブルーのファーマーチェア  
「ネパール」/バクスター ジャパン







室内を彩る模様を使い、  
アウトドアにも統一感を

キッチンの外側に位置するテラス。  
リビングに置かれたナバホスタイルの  
テキスタイルはここにも登場。  
アルプスの雄大な景色と  
マッチして、テラスにほどよい  
カジュアル感をプラスしている。  
ローテーブルはカスタムメイド。  
スツールは、Moggの「Donut」。

太陽が顔を見せてたら  
テラスでティータイム

雪が解け、周囲が緑に覆われてきたら、  
屋外でティータイムを楽しむ季節。  
カスタムメイドのローテーブルに  
お気に入りのハーブティーとクッキーを  
置いて、家族や友人と語らうことも。  
ナプキンも、インテリアのカラーと  
統一感のあるものをセレクト。



’70年代と現代が見事に溶け合う、温かなインテリア

アローザはスイス南東部、グラ  
ウビュンデン州に位置するリゾー  
ト地。四方にアルプスの山々を望  
むこの村は、クラウディア・ジル  
バーシュミットにとって、温か  
い思い出の詰まった特別な場所  
だった。建築家だった彼女の曾祖  
母は、ここでホテルの建築に携わ  
り、祖父はそのホテルの経営者と  
なった。幼かったクラウディア  
は少女時代、アローザで生まれ  
育った父親に連れられて、豊かな  
自然の中で休日を過ごしたという。  
建物に宿るスピリットを  
生かしてリノベーション

クラウディアは現在、インテリア  
デザイン会社アトリエ・チュー  
リッヒの代表でクリエイティブ・  
ディレクターを務める。チュー  
リッヒを中心に国内外を飛び回る  
日々を過ごしながらも、彼女はア  
ローザで過ごした日々を忘れては  
いなかった。あれから数十年の月  
日たちが、自分の家族をもつよ  
うになってからも、思いは変わらな  
かった。そんな彼女に2016年、  
またとないチャンスが巡ってくる。  
あるロτζジが売りに出ているとい  
うのだ。それは少し変わった物件  
だった。「紹介されたのは、スキ  
ー場の中に立つロτζジだったの」と  
クラウディアは笑う。「際立って  
美しいわけではなかったのだけ  
れど、とても雰囲気よかった」

ひと目でこの家を気に入った彼  
女は購入の手続きを済ませると、  
早速、家族と共にここでその年の





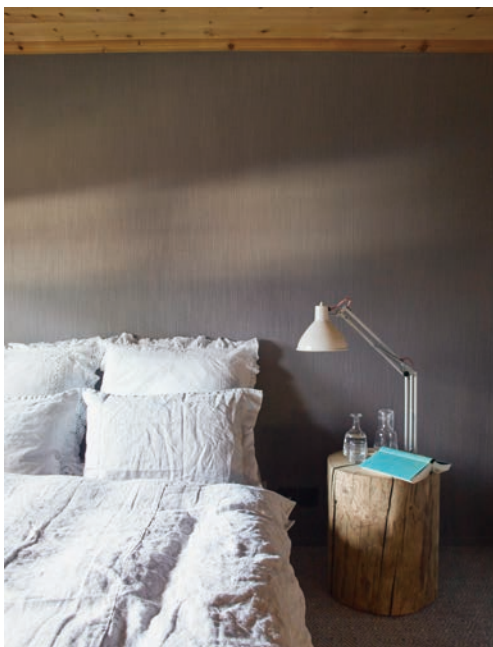
冬を過ごした。1970年代に建てられ、当時の家具や調度品に囲まれたこの場所を、どのように変えたいか考えたという。

「この家に漂う70年代のスピリットを受け入れようと決めたとわ。エレガントな山荘」を無理に気取るつもりはなかった」。ただ現代の生活に合わせて、「新しい風を入れる必要があった」という。リノベーションの多くは、壁の色を塗り替えるなど表面的なものだったが、構造面に変化を加える必要もあった。例えばキッチンとリビングを隔てていた壁を取り除き、料理をしながら家族や友人たちと会話を楽しめるオープンなスペースへと変えた。一方でダイニングテーブルを囲むコーナーチェアなどには、「70年代スタイルを残した。さらに、グレーがかった壁もそのままにし、窓枠にもダークカラーを選んだ。落ち着いた雰囲気」のなか、アメリカ先住民のナバホ族の特徴的な模様をあしらったテキスタイルやアート、それにクラウディア自身がデザインしたオブジェが、アクセントになっている。「壁にダークカラーを使うことをちゅうちょする人は多いけれど、境界線をぼかしてくれるから、空間を広く見せてくれるのよ。なによりも、このロτζジを囲む山々の姿を効果的に見せてくれる」

窓の外に広がる壮大な風景の移り変わりとともに、クラウディアの心に新たなアローザの思い出が刻まれていく。

ニュアンスのある白で  
バスルームにぬくもりを

洗面台とミラーは、アトリエ・  
チュールリヒによるもの。  
ウォールランプは、Davey Lighting。  
奥に見える木製のウォールシェルフは  
ピンテージだ。洗面台の上に  
置かれているのは、スウェーデンの  
ボディーケアプロダクト、ラ・ブルケット。  
水栓 ドンプラハ / リラインス  
ショールーム ル・ペイン  
ラ・ブルケット / ラ・ブルケット 青山



自然素材に囲まれて  
心地よい眠りにつく

オリジナルの壁紙の上から、  
ブラウン系のカラーでペイント。  
ウールのカーペットはVandra Rugs  
のもの。ベッドリネンは、  
Kardelen Sweden。ベッドサイドの  
ランプは、Mogg。ベッドは  
スイスの職人によるハンドメイド。



訪問者を出迎えるのは、  
ちょっとしたユーモア

エントランスには、クラウディア率いる  
アトリエ・チューリッヒによる、  
星をかたどったオブジェを掲げて。  
暗くなりがちな階段には、  
グラフィカルな柄のラグを合わせた。  
扉を開けると、アルプスの  
大自然が迫り来る。

